

## ご挨拶

医療法人立川メディカルセンター  
理事長 吉井 新平

医療法人立川メディカルセンター2022年度学術活動・業績集をお届けします。

これまでご挨拶では学術活動の記録をまとめる意義について度々述べてきました。同時に近年の世界情勢や社会の動きに対する捉え方、当地域や新潟県全般の医療動向に対して当法人の対応や法人の近況、さらに将来ビジョンについても触れさせて頂きました。

昨年の学術活動・業績集の挨拶の一部です。

「新潟県の医師不足は全国最下位と言われる中、県外からの応援もありここ数年法人医師数は増加中です。職員の意気も上がり大変有難いことです。」

「医学・医療に対する社会の意識が相当変化しています。医療現場は無数の選択の連続、常に振り返らなければ進歩はありません。ここに学術活動の意義があります。」

混とんとした世界情勢の中で、「どう行動すべきか、では地域社会をしっかりと守り抜くことが遠回りに見えても私たちが出来る最も大切なことではないか」としました。

これを受けて令和5年年頭の挨拶では「越後の国は縄文時代から幾多の試練や国難を乗り越えてきた地域社会、様々な試練に直面する中でも地域医療の質と量の堅持、医療人育成を含め未来への投資を着実に進めていく責務がある」と明るい決意を述べました。

しかしながら、2022年度の立川総合病院年報のご挨拶には「年が明けた1月早々、消化器内科医師4名中3名が4月から引き上げるという通告があり、長岡市医師会、救急輪番病院と情報共有し4月以降の対応を迅速に協議して頂いた」と書かざるを得ない状況となりました。令和5年10月以降は残る1名も退職され、状況はさらに厳しくなっております。

立川総合病院の消化器内科医師の引き上げは他の領域を含む地域医療に多大な悪影響を及ぼしていますが、県内のいくつかの病院の消化器内科の状況も悪化していると聞いており、さらに内科専攻医や初期研修医マッチング数の減少と相まって県全体の問題となりつつあります。

当法人は立川総合病院消化器内科の問題を最優先課題としていますが、現時点で見通しは立っておりません。以上、ことは県全体の医療に影響する可能性が高いと推測し、場違いではありますがこの場をかりての現状報告としました。

当法人はこのような状況においても常に高い理想とビジョンを掲げ、各方面で粛々と事業を推進しております。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどを切にお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2023年10月